

Weekly

# VISION OKAYAMA

岡山を元気にする経済情報誌



巻頭インタビュー

## 既成概念にとらわれず改革

逆風の玉野経済振興に挑む玉野商工会議所会頭山根一人氏

玉野商工会議所の会頭に就任した㈱アール・ケア社長の山根一人氏。基幹産業の造船の不振、フェリーの宇高航路廃止など厳しい状況が重くのしかかる中、正・副会頭4人中3人が50歳代と大幅な若返りを果たした同商工会議所をどのようにかじ取りしていくのか、方針を聞いた。

グランドマート

コロナに負けるな!!次亜塩素酸水を無償提供

ホテルグランヴィア岡山

全館飲食機能見直しで19階「アプローズ」リニューアル

天満屋、岡山県

食を適切に選ぶ「食活」POPで健康アドバイス

植田板金店

受動喫煙対策に「小屋やさん」活用を提案

2020 No.2095

04.20

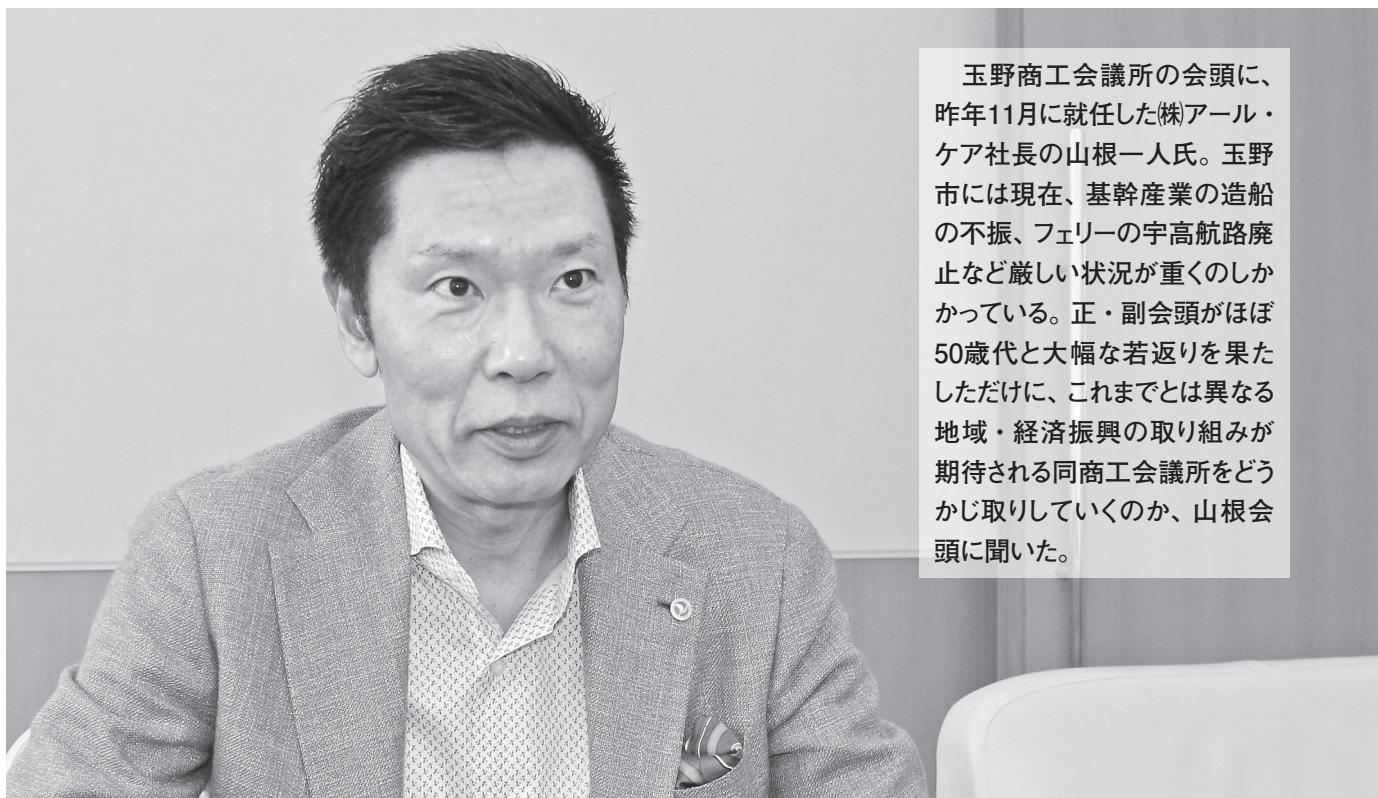
visionokayama.jp



# 既成概念にとらわれず改革

## 交流人口増加、製造業振興、支援メニュー充実に挑む

玉野商工会議所会頭 山根一人氏



玉野商工会議所の会頭に、昨年11月に就任した(株)アール・ケア社長の山根一人氏。玉野市には現在、基幹産業の造船の不振、フェリーの宇高航路廃止など厳しい状況が重くのしかかっている。正・副会頭がほぼ50歳代と大幅な若返りを果たただけに、これまでとは異なる地域・経済振興の取り組みが期待される同商工会議所をどうかじ取りしていくのか、山根会頭に聞いた。

—会頭としてどのようにかじを取っていくのか。

造船業の不振、宇高航路の廃止、新型コロナウイルス感染の影響と取り巻く環境は厳しいが、ここで後ろ向きになってしまえない。既成概念にとらわれず、地域振興・経済活性化に取り組んでいきたい。事務局も意欲的で、新たな取り組みとして中期行動計画の策定を提言。総務、工業振興、商業振興、地域開発、観光交通、中小企業対策の6委員会、さまざまな案を精査しているところだ。ただ、計画として掲げるからには効果を上げられるよう、あれもこれもではなく、しつかり的を絞ったものにする。骨子とするのは、あらゆる事業者が適正な利益を上げること。この実現のために、尽力したい。

—具体的にはどのようなことに取り組むのか。

まず、人口が減少する中で地域の商業、サービス業を支えるために不可欠な交流人口増加策として、昨年警備負担の増加などで中止となった花火大会の存続を目指したい。今年については、市政80周年記念事業として開催されるが、玉野市はこれを最後にイベントへの補助打ち切りを明示しており、存続が危ぶまれている。批判の声も聞かれるが、市が行財政改革のために下した決断だけに、行政に依存した姿勢の見直しこそ必要な議論だと思う。そこで目指すのが受益者負担による自立したイベント開催だ。花火大会会場への経路はほぼ6カ所に限られており、入場料制にすることは可能だと思っている。同様に今年中

止が決まった港フェスティバルも来年復活させたい。

—なぜイベントにこだわるのか。

多くの地域でこのようなイベントが中止、縮小されている。そんな中で継続すれば楽しみにしている市民に明るい話題を提供できるのはもちろん、市外から注目され印象に残る。花火大会で流入人口が増えるのは、1日、2日の短期間だが、地域ブランディングとしての意義は大きい。

—そのほかの交流人口増加策は。

観光の面から言うと海外メディアからも評価された「せとうち」を生かした仕掛けが必要だ。外から人を呼ぼうと思えば、大胆なことをしなければならない。例えば、宇野港に世界選手権開催が可能なレベルの

BMXやスケートボードの競技・練習場を整備するなどでもいい。一方で、SNSの発信力を生かすなど、工夫一つで集客するアプローチも必要だ。市内のJR各駅に、SNS映えするちょっとした仕掛けを施してはどうか。

#### —経済振興については。

大きい課題は、(株)三井E&Sホールディングス(旧三井造船)の下請け会社をどうフォローしていくか。特効薬はなく、知恵を総動員して真剣に対策を考えなければならない。経済基盤の底上げ策としては、宇野港田井地区に隣接する貯木場を埋め立て港を拡大したい。今よりさらに大型の貨物船が接岸できるようにすることで、玉野市の物流の拠点性を高めたいと考えている。市場調査や採算性の試算をしっかりと行い、地域住民の応援の声が必要だ。地域の製造業などへの波及効果も期待できるだけに、整備実現へ要請運動が盛り上がる仕掛けを作りたい。

#### —会員支援も重要だ。

新型コロナの影響を受けた企業や造船関連企業などの支援に力を入れていく。ただ支援策には、大きく環境が変化する中で相当昔から内容が変わっていないなど、現実とのずれが広がり使えないものも多いと感じている。経営革新にしても、健康経営にしてもサポートを求める企業は5%にも満た

## 形骸化した事業見直す

ない。そういった形骸化したものを見直し、使い勝手の良い支援を提供していきたい。

—創業支援では、玉野市の助成制度と連携し、移住者などの新規開業で実績を上げ、会員増強にもつながっている。

玉野市の創業支援事業は、当商工会議所の創業塾を受講することなどを条件に、税の減免、保証枠の拡大、融資要件の緩和などの優遇措置を受けられるようになっている。その結果、個人事業主の入会が増加している。ただ、指導内容などをさらに磨くことで、個人事業主にとどまらず法人の会員増加にもつなげられるのではないかと考えている。現在の支援内容は、創業者としての経験から言うと、いきなり従業員50人の会社を立ち上げるわけでもないのに初めからすべて教えようとしがちと感じる。最初は自分だけ、家族だけという状況から、徐々に従業員が増えていく中で、その都度必要なことを学んでいくことができればよいのではないか。むしろ最初はお客さんが望むものは一体何なのか、そんなことから始めた方がよい。経理や労務は後からついてくるもの。経営者のニーズに合った支援を伴走するように提供するようなことを考えていきたい。

—そういったことを実現していくためには、何が必要なのか。

大切なのは、人の協力。限られた人の中で意見を交わしても、出てくるアイデアは限られている。住んでいる人間には分からない良さに気付く外部の人の意見を活用したい。もちろん地元の人の意見やアイデアも必要。ただし、みんなが意見だけ言う無責任な評論家にならないようにすることが大切だ。そのアイデアが、実現可能なのか、効果があるのか経営者視点で参加してもらえるようにしたい。協力的な玉野市民に知恵を出し動いてもらい、時とお金をいただいて100点にしていくのが仕事だと思っている。

#### <プロフィール>

やまね・かずと。玉野市出身。1985年愛媛十全医療学院理学療法科を卒業し、理学療法士として岡山市立市民病院に勤務。院内でのリハビリに限界を感じ、1990年JRS日本リハビリテーションサービスを創業し訪問リハビリ事業を開始。1997年アール・ケアの前身となる(有)日本リハビリテーションサービスを設立した。現在通所介護事業所10施設、訪問看護事業所4施設、同介護施設2施設、グループホーム1施設などを展開。玉野商工会議所には1995年に入会し、13年から議員。10年度には青年部会長も務めた。趣味はフュージョン系のバンド活動。玉野市内の自宅に妻と2人暮らし。58歳。

### 玉野商工会議所

**所在地** 玉野市築港1-1-3

**会員数** 720社

**創立** 1946年10月

**会頭** 山根一人

**副会頭** 中谷勤(株)MESファシリティー

ズ社長

伊達元英(株)タテ薬局社長

住吉孝文(株)児島建設(株)社長